

医療と介護の連携

日時：平成29年3月10日（金） 19:00～20:00

開催場所：保土ヶ谷区医師会館 2階

参加者：医師、薬剤師、地域包括支援センター、訪問看護ステーション
介護事業所、介護支援専門員、横浜市職員、保土ヶ谷区区役所職員

参加人数：42名

内容

① 区内の訪問介護の現状について

（ 訪問介護連絡協議会より ）

- ・訪問介護事業所連絡協議会の設立4年目。訪問介護事業所の現状は厳しく慢性的な人材不足。介護職の専門性をいかに発揮出来るかが今後の課題。
- ・訪問介護の中心的な役割は、『サービス提供責任者』についての説明及び定期巡回訪問介護看護についての説明。

② 介護職への事前アンケートについての解答

I 急変時は医者と看護師どちらに先に連絡を入れたらよいか？

⇒医師より…連絡先はケースバイケース、患者様・家族と事前の打ち合わせが必要。

⇒訪問看護師より…まず訪問看護師に見てもらったほうが良い。

ただ、費用負担の面での考慮は必要。

契約時に、緊急時の対応方法をきちんと決めておく事が大事である。

II 訪問時の床ずれの対応を知りたい

⇒皮膚科医より…床ずれの原因を探る事が大切で、医療処置はそれから。写真をメールする事が可能であれば医師の早期診断の役に立つ。

Ⅲ 在宅での内服薬の管理について知りたい (薬剤師より返答)

- ・ 買い物代行で市販購入を頼まれた
⇒法的にはセルフメディケーション以外は本人でなくても購入可能。
- ・ 麻薬の屯服の管理方法
⇒医師への報告、廃棄の際は行政への報告義務ある為、処方された薬局へ返却。
- ・ 喘息吸入薬がきちんと出来ているのか不安
⇒チェック機材があり(取り寄せ可能)
- ・ 市販薬の服用はどこまでいいの？
⇒市販薬は一時的な症状改善である。毎日頻繁に服用しているのであれば医師への報告が必要。購入の際には、薬剤師へ受診の目安を聞く。

③ 今回の『医療と介護の連携』の会議についての御意見を多数頂きました。

I 良かった点・参考になった点がありましたか？

- ・ サービス担当責任者の業務の大変さを多職種に伝えて頂けて本当に良かった。
- ・ 事前アンケートで質問した事項についてきちんと説明して下さった。
- ・ 事前の質問内容をまとめて返答して下さり分かりやすかったです。
- ・ 医師や看護師など多職種の方と直接顔を合わせることが出来、有意義だと思いました。
- ・ 医療的な事をなかなか聞けなかったが、今回の会議で詳しく聞く事ができて参考になった。
- ・ すべて参考になりました。
- ・ 分からない点や日々困った点について、一つ一つコメントが記載された資料が準備されておりメンバー間での共有に役立った。
- ・ 在宅医療について医師や看護師からの話が聞いて良かった。
- ・ 特に医療と介護の連携についてのアンケートに対する回答は具体的でとても良かった。たくさんの資料が頂けてありがたかった。

II 分からない点、より深めたい点がありましたか？

- ・ 今後もサービス担当責任者の役割について、周知がまだまだ必要であると感じた。

- ・連携には、現場の声を取り入れる事で利用者との距離が近くなると思う。
- ・実際の業務にてスムーズな連携させて頂ける様に努力したい。
- ・服薬状況や副作用等、CMを通じてカンファレンス時に情報提供できるようになって欲しい。
- ・訪問介護において、服薬対応をしているケースが多々あります。薬剤師さんからの話しをもう少し聞きたかった。
- ・塗り薬の適量が記載された資料を頂き分かりましたが、どれをどの位と言うものを実際見てみたかった。
- ・多職種が頻繁にこういう場で顔を合わせお互いの仕事への理解を深める方が良いと思う。
- ・それぞれ職種の常識でも、多職種では知らないこともあると思います。

Ⅲ ご意見・ご要望があれば自由にお書きください。

- ・グループワーク等の意見交換を行える時間があると良かったです。
- ・また医療職のお話しを聞きたい。
- ・今後もぜひ参加したい。
- ・このような機会があれば、一つ一つ知識を深めケア時の不安を少しでも減らしていけるように思います。
- ・このような研修会が定期的にあるのはとてもありがたい事です。
- ・今回は主に、介護からの質問に答えていただきましたが、看護師等医療職側からの介護のコツについてあれば伺いたいです。
- ・いろんな病気に対応した経験や対処した内容について伺いたい。

アンケートの回答に際し、ご協力ありがとうございました。
 頂いた貴重なご意見・ご要望は、次回の『医療と介護の連携』
 にも反映させていきたいと思っております。



<h2 style="text-decoration: underline;">医療と介護のアンケート</h2>	<p>黒字は、介護事業所からの質問に対する返答内容です。 赤字は、具体的な資料配布や、具体的な説明を医師・看護師・薬剤師より説明していただいた内容です。</p>	
<h3>医療と介護の困りごと</h3>	<h3>医療処置で知りたいこと</h3>	<h3>その他困りごと</h3>
<p>緊急時に、キーパーソンと連絡が取れない</p>	<p>床ずれ処置 ケアマネジャーからガーゼが汚れていたら変えてくれといわれたがこれは医療行為では？⇒資料配布</p>	<p>買物代行で、市販薬購入を頼まれた。説明しても納得してもらえない</p>
<p>カンファレンスに参加できる医療関係者が少ないので、何かあったとき連絡が取りにくい</p>	<p>喘息の吸入器がきちんと出来ているかどうか確認が難しい。 高次機能障害があり、あやふやである。⇒薬剤師より説明</p>	
<p>深夜の急変時、医師とも看護師とも連絡が取れない</p>	<p>MRSA等感染症利用者の対応を施設内ではどこまですれば良いかの基準を知りたい⇒資料配布</p>	<p>看護師により、技術や対応が違う</p>
<p>看護師を入れないのかなと思う事あり。医療的な事を相談しやすいのは看護師なので</p>		<p>認知症で、内服状況を把握するのが難しい。ケアマネジャーが、訪問看護を入れてくれない。ケアマネジャーは、医者との連携が難しいので、看護師が居ると相談しやすい。</p>
<p>急変時、看護師より医師に先に電話しては駄目なのか？家族に聞かれて困った。⇒医師より説明</p>	<p>床ずれフィルムの交換は、介護職でも可能か？</p>	<p>軟膏類の塗布は、介護職でも可能か？ ⇒資料配布</p>
<p>・通院介助のヘルパー、診察室での医師の話を性格に聞き取り家族に伝える事が難しい ・市販薬の服用はどこまで報告するか、使用する時の判断は？ ・薬管理に看護師を入れるとお金がかかるからと介護職に依頼される。責任が発生するので、どこまでするか？ ・麻薬の頓服の管理方法、自己管理で引き出しに沢山の残薬ある場合の対応。⇒薬剤師より説明</p>	<p>・介護職の医療行為は行えないが、看護師との認識の共有が出来ているのか？ ・防水フィルムの交換方法を知りたい</p>	<p>・受診拒否の利用者を医療に繋げるにはどうしたら良いか？ ・デスクンファがしたい ・栄養管理で困っている。偏食や摂取量の低下など。 ・鶴見区のイエローノートが、介護保険利用者全員の自宅にあるといい</p>
<p>・会議等で専門用語が多い ⇒資料配布 ・質問の範囲(聞きたい内容をどこまで聞いたらいいか…、こんな事を聞いたら…、)聞く時間帯や、電話でも良いのか</p>	<p>・嚥下障害の方の介助方法 ・軟膏処置(状態に合わせて何をどう選択していいのか?) ⇒介護の力 参照 http://kaigo-chikara.jp/</p>	<p>・サービス提供責任者の役割が周知徹底されていない。 ・予後予測が良く分からない事がある。サービス提供責任者に観察ポイントなど往診の先生や看護師から伝達して欲しい。サービス担当責任者からヘルパーに連絡を入れる。 ・定期巡回について、保土ヶ谷区には二箇所(フルライフと豊稜の大地)で対応中。 ⇒ 介護事業所より説明</p>
	<p>・浮腫の強い方の足浴方法、効果的なマッサージ ・インスリン方法</p>	<p>・終末期の利用者の訪問は怖い。訪問看護師の指示の元看取りを行ったケースあり。終末期に自分らしく最後を迎える為のサポートについて知識を深めたい。 ・健康塾のポスター見なかった。参加したかった。</p>
<p>・服薬内容変更を事前に知らされていない為、ヘルパーからの問い合わせに困った。 ・訪問看護とヘルパーのブッキング(ケアマネジャーの連絡ミス)</p>	<p>・インシュリン注射 流れ ⇒HPのアドレスを配布 ・胃ろう周囲の清潔保持 ⇒資料配布 ・血糖測定の方が、なかなか血が出ない時の対応 ・軟膏の必要量 ⇒資料配布</p>	